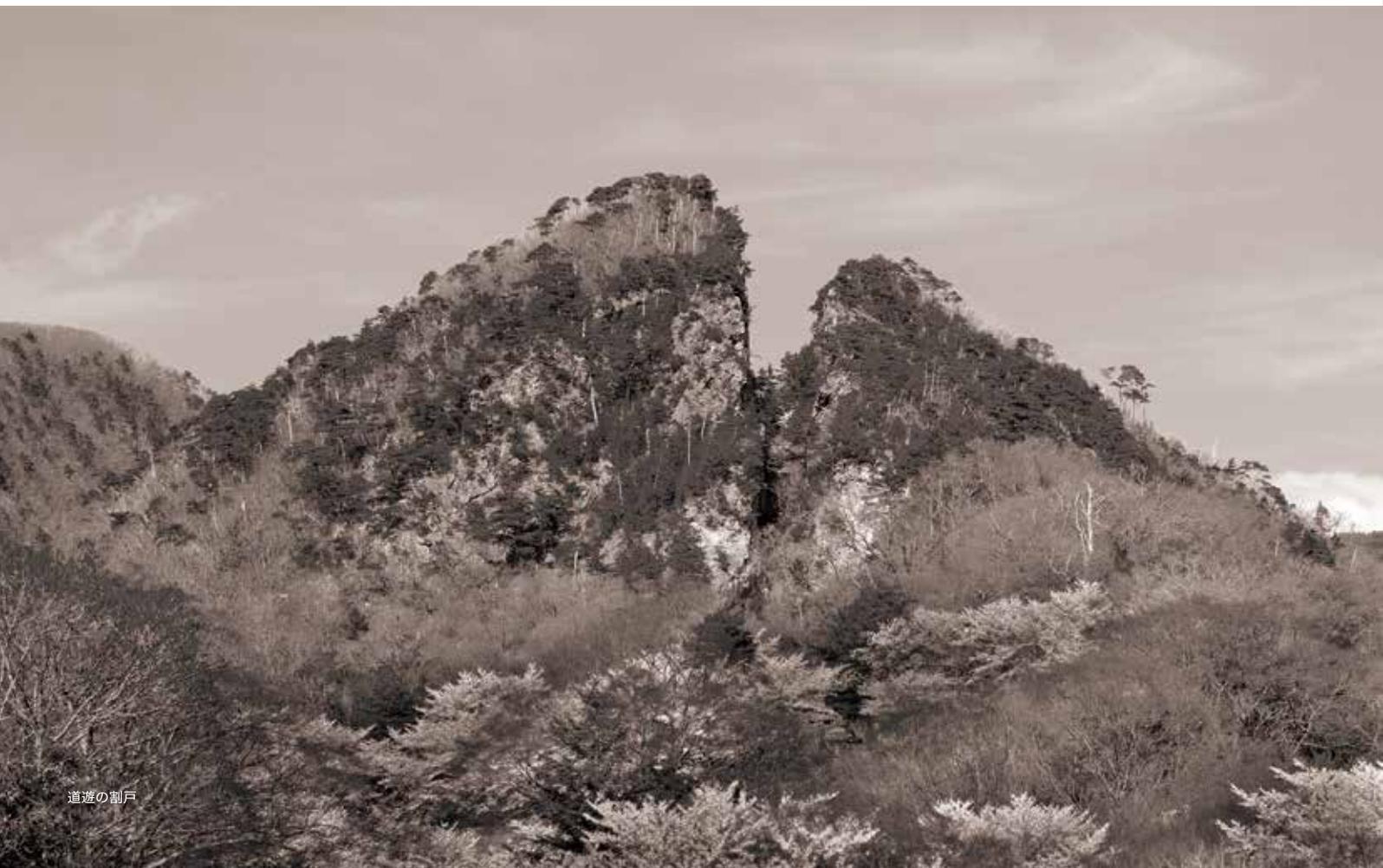
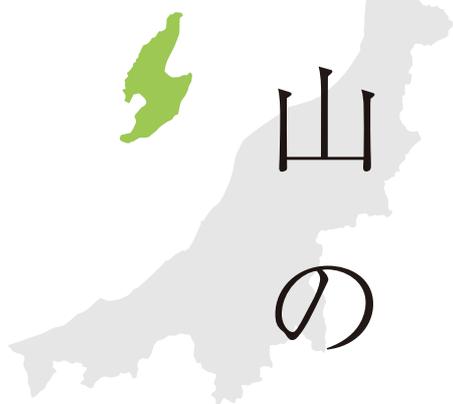


金を中心とする

佐渡鉱山の

遺産群

The Sado Complex of Heritage Mines,
Primarily Gold Mines



佐渡金銀山はユネスコの世界文

平成18(2006)年から新潟県と佐渡市は、佐渡金銀山の世界文化遺産登録を目指して共同で調査研究を行ってきました。

平成22(2010)年に「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」という名称で、世界遺産暫定一覧表※に記載され、正式な世界遺産候補となりました。

現在、構成資産の保全や来訪者の受入れ体制整備など、早期の登録を目指して各種取組を進めています。

※各国がユネスコに提出する世界遺産候補の一覧表

佐渡金銀山の世界遺産としての価値

- 伝統的な手工業による金銀生産の発展を示す鉱山遺跡と鉱山を支えた各時期の集落構造の変遷が目の当たりにできます。
- 江戸時代に佐渡の金は佐渡奉行所で小判に製造され、交易によって海外に流出し、国際貿易に大きな影響を与えたと言われています。
- 江戸時代に培われた技術や生産システムを基盤として、明治時代になってスムーズな機械化を達成することができました。

世界の鉱山開発の歴史は、手工業による佐渡金銀山と、産業革命以降の機械による欧米の鉱山の双方がそろうことによって全貌を語る事ができるものであり、そこに佐渡金銀山を世界遺産に登録する意義があると考えています。



佐渡の拡大図



ロベール「日本帝国図」18世紀フランス(鶴見大学図書館所蔵)



佐渡小判(オランダ銀行所蔵)

佐渡の金銀が与えた影響

江戸時代の初め、徳川幕府はいわゆる「鎖国」によって海外との貿易を制限し、金銀の流出を抑える施策を行いました。しかし、オランダとの貿易では、17世紀後半の約50年間に、佐渡を含め日本で製造されたおよそ100万両もの小判が国外に流出したと言われています。我が国最大の金の産出地であった「佐渡」は、18世紀のフランスの地図において「金鉱山(Mines d'or)」と記され、オランダ以外の国々でも注目されていたようです。

にし み かわ さ きん ざん 西三川砂金山

Nishimikawa Placer Gold Mine

佐渡における金銀産出の歴史は平安時代にさかのぼり、12世紀に成立したとされる『今昔物語集』に登場する砂金採取の場所が西三川砂金山とされています。

西三川砂金山では、山を掘り崩して地層の中にある砂金を含んだ土砂を水路に落とした後、堤の水を一気に流し込んで余分な土砂を洗い流す“大流し”と呼ばれる技法が用いられました。その際に必要な水を確保するため、水源から長い水路を設けて堤に大量の水をためておきました。こうした採掘跡や水路跡が広い範囲にわたり残っています。



砂金採掘跡と笹川集落



大山祇神社 / 撮影©西山 芳一



砂金採取の様子を描いた浮世絵
二代広重画「諸国六十八景 佐渡金やま」19世紀後半
(長岡市立中央図書館所蔵)



虎丸山 大流しにより掘り崩された採掘地 / 撮影©西山 芳一



鶴子銀山代官屋敷跡 人工的に造られた平坦地



大滝間歩 鶴子銀山を代表する坑道の一つ／撮影©西山 芳一



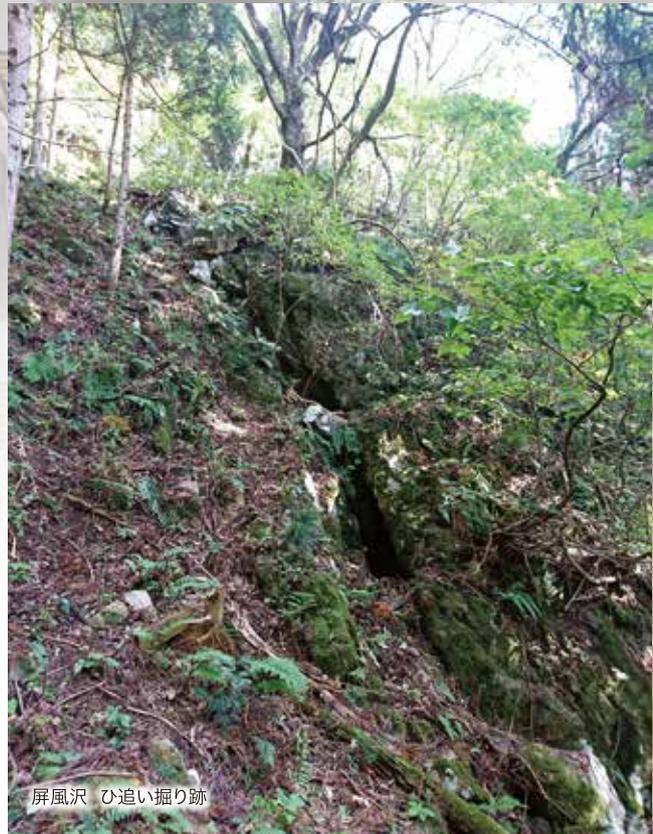
百枚平 大規模な露頭掘り跡／撮影©天野 尚



鶴子銀山

Tsurushi Silver Mine

16世紀中頃に発見された佐渡最大の銀山で、600か所を超える採掘跡が確認されています。地表近くの鉱石を掘り取る“露頭掘り”や、鉱脈を追いかけながら掘り進む“ひ追い掘り”、いくつもの鉱脈を横断するように水平なトンネルを掘る“横相”など、時代の異なる様々な採掘方法の痕跡を見ることができます。さらに、代官屋敷跡や鉱山集落跡などの銀山に関連する遺跡も多く発見されています。



屏風沢 ひ追い掘り跡

相川金銀山

Aikawa Gold and Silver Mine

相川金銀山の本格的な開発は慶長6(1601)年に始まり、佐渡は徳川幕府の直轄地とされました。石見や生野、甲斐などから山師と呼ばれる鉱山経営者が集められ、最先端の測量、排水技術、金銀製錬技術(灰吹法、硫黄分銀法、焼金法)が導入されました。これらの技術により、相川金銀山は世界的にも有数の金産出量を誇ることとなり、その後、佐渡の技術は全国各地の鉱山に伝えられました。

採掘から小判製造まで行った鉱山は国内でも佐渡だけであり、その工程を鮮やかに描いた鉱山絵巻が100点以上も現存します。絵巻からは鉱山技術や作業工程の変遷を詳細にたどることができます。



佐渡奉行所(復元)



上空から見た道遊の割戸 鉱脈を掘り進めた結果、山が大きく割られた様子がわかる



京町通り 鉱山都市の風景が残る



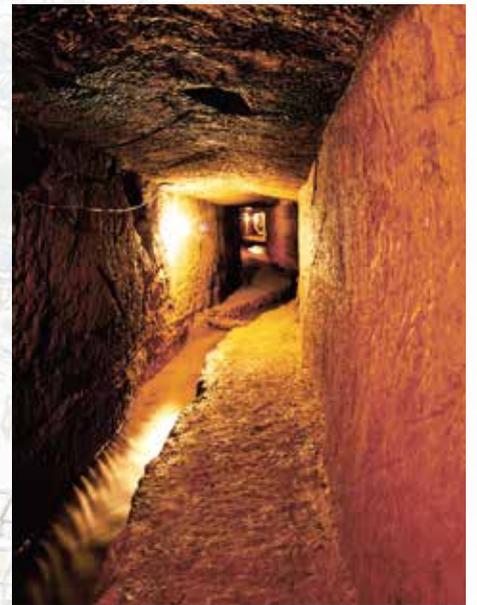
大切山坑 坑内換気のために並行して掘られた坑道



佐渡奉行所跡出土品／撮影©小川忠博

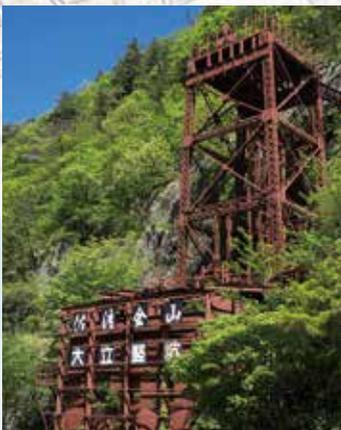


「佐渡の国金掘の巻」(相川郷土博物館所蔵) 小判の製造工程



南沢疎水道／撮影©天野 尚

明治2(1869)年に相川金銀山と鶴子銀山は官営化され、その後、明治29(1896)年に三菱へ払い下げられました。この間、お雇い外国人や海外に留学した日本人技術者などが赴任し、垂直に坑道を掘る西洋式竖坑や、鉱山で使用される機械などが導入されました。このような欧米からもたらされた先進的な鉱業技術により、金銀生産量は大幅に増加し、佐渡鉱山は我が国を代表する近代的な鉱山へと生まれ変わりました。



大立竖坑櫓／撮影©西山 芳一



北沢浮遊選鉱場／撮影©西山 芳一



大間港／撮影©天野 尚

世界遺産とは？



人類共通の宝物

世界遺産とは、自然と人類によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた、人類共通のかけがえない宝物です。戦争、自然災害、環境汚染などにより危機にさらされているものも含まれ、国際協力を通じた保護の下に国境を越えて世界の全ての人々が次世代に残していくべきものが世界遺産です。

ユネスコと世界遺産

ユネスコは国際連合の専門機関です。ユネスコ本部にある世界遺産センターは、世界遺産条約に基づき、世界遺産を未来に守り伝えていくための国際協力の枠組みを作り、世界遺産の保護を呼びかけています。

世界遺産登録までの流れ

- ① 暫定一覧表記載 : 我が国の世界遺産暫定一覧表に記載(平成22年)
- ② 推薦書案作成 : 専門家の指導を受けて国文化財の指定・選定や整備を進め、遺跡の価値を高めるとともに推薦書案を作成
- ③ 推薦書提出 : 県・市の推薦書案をもとに国が推薦書を作成しユネスコに提出
- ④ 現地調査 : イコモス(国際記念物遺跡会議)が専門的な見地から現地調査を実施
- ⑤ 世界遺産登録 : ユネスコ世界遺産委員会で登録が決定



ガイダンス施設 きらりうむ佐渡

佐渡金銀山の全てがここから始まる

平成31(2019)年4月、佐渡金銀山の玄関口として、現地を訪れるための情報発信拠点「きらりうむ佐渡」がオープンしました。中世から現代につながる佐渡金銀山の歴史を示す展示や、金銀生産の様子をわかりやすく紹介した4つのシアターで佐渡金銀山の世界をご案内します。

〒952-1562 佐渡市相川三町目浜町18番地1

アクセス: 両津港から車で約50分、小木港から車で約75分

Tel: 0259-74-2215 Fax: 0259-74-2223

開館時間: 8:30~17:00(展示室最終受付16:30)、休館日: 12/29~1/3

観覧料: 大人300円、小中学生150円/団体(15人以上)大人250円、小中学生100円



佐渡を世界遺産に

佐渡金銀山の世界遺産登録へのご支援をお願いします

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室

〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1

Tel: 025-280-5726 Fax: 025-280-5764

E-mail: ngt500080@pref.niigata.lg.jp

2019年8月発行

佐渡市世界遺産推進課

〒952-1292 新潟県佐渡市千種232

Tel: 0259-63-5136 Fax: 0259-63-6130

E-mail: k-goldmine@city.sado.niigata.jp

詳細はホームページで

佐渡金銀山

二次元コードからもアクセスできます

